

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）
分担研究報告書

第2回 Stevens-Johnson 症候群ならびに中毒性表皮壊死症の全国調査

分担研究者 高知大学医学部小児思春期医学講座 教授 藤枝幹也
研究協力者 高知大学医学部小児思春期医学講座 助教 石原正行
同上 同上 助教 玉城 渉

研究要旨 薬剤性過敏症症候群（DIHS/DRESS）は、Stevens-Johnson 症候群ならびに中毒性表皮壊死症は、急性期治療終了後も後遺症が残る事例もあり、その実態と各症例の背景因子を検討する。

A. 研究目的

第2回 Stevens-Johnson 症候群ならびに中毒性表皮壊死症の全国調査に対して後遺症の調査のため、3次調査として呼吸器・肝臓・腎臓疾患の既往歴、背景因子、後遺症の有無調査を目的とする。

B. 研究方法

2020年に各分担研究者の藤枝幹也（腎臓）、済生会横浜市東部病院小児肝臓消化器科部長 乾あやの（肝臓）および京都府立医科大学呼吸器内科講師 金子美子（呼吸器）と協議の上、3次調査臓器合併症調査票を作成し、第2回全国疫学調査の2次調査全症例を対象とし、対象施設160施設508症例に2021年3月に発送し、408例から回答を得た。（3次調査内容については、分担研究者の金子美子の報告書を参照いただきたい。）当施設では、腎臓検査異常を中心に解析した。

（倫理面への配慮）

情報から得られたデータのみを匿名で、分担研究者および責任研究者の責任の下、保存し、廃棄する場合、紙媒体はシュレダーを用いて廃棄し、電子データはデータを完全に消去する。

C. 研究結果

症例報告書が提出された408例のうち、

対象外と重複症例など不適格症例は16症例で、適格症例は392例であった。予備解析では腎臓検査異常が認められた例は28.7%であった。呼吸器後遺症のあるとされた3例のうち2例に腎臓検査異常が認められた。

D. 考察

合併症は今までに詳細な検討がなされていないのが現状である。本研究により重篤な後遺症が残る前に治療方針の決定や専門診療科の介入が必要な条件を明確にすることは、長期予後の改善に寄与することができると期待される。今回の予備検査による腎臓検査異常症例の詳細調査を行う予定である。

E. 結論

呼吸器・肝臓・腎臓に関する異常の頻度について3次調査を行った。予備解析を進行中で、今後は、後遺症の頻度や長期予後につき詳細な検討を行う予定である。

F. 健康危険情報

特になし。

G. 研究発表

1. 論文発表
別紙参照

2. 学会発表
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況
(予定を含む。)
なし